

平成 27 年 10 月 29 日

教頭

平成 27 年度 大阪府立三島高等学校 第 2 回 学校協議会 議事録

1 実施日 平成 27 年 10 月 24 日(土)

2 出席者

(1) 協議会委員 (アイウエオ順)

柏原 泰和 (川西地区青少年健全育成協議会会長) (欠席)

芝井 敬司 (関西大学教授) 協議会会長

高島 敏彦 (高槻市立郡家小学校校長)

北堂 薫 (高槻市立第二中学校長)

宮坂 政宏 (週刊教育 Pro 主幹) 協議会副会長

武藤 和子 (三島高等学校 PTA 会長)

(2) 校長

(3) 事務局

山崎 一郎 教頭、藤岡 通夫 事務長、金田 修治 首席、尾崎 聡 首席

3 議題

(1) 平成 27 年度の教育活動中間レビューについて

(2) 平成 28 年度高校入学者選抜について

(3) 高大接続、学習指導要領の改訂について

4 委員からの指摘提言

(1) 平成 27 年度の教育活動中間レビューについて

- ・教育活動の中間レビューを実施することは大変良いことである。適切な目標を立て下半期に向けて計画を進めていただきたい。
- ・ホームページ広告は新しい試みで評価できるが府教委はどのように思っているのか。
- ・企業と連携して冠講座といった形での事業も検討できるのではないか。
- ・企業との連携は、“場”を変えての生徒への意識付けや新しい教育体験になる。
- ・地元企業との連携は積極的にすべきで、企業と学校の連携に様々な可能性を追求していただきたい。
- ・大学入試改革が現中学 1 年生の受験時に適応されるがその対応策も見据えておられる点が評価できる。
- ・大学でも学生が本を読まないが、読む必要性を教えなければならないし、様々な仕掛けを工夫し、読書推進することが重要である。

- ・読解力・言語活動の向上がすべての学力向上の源であるので、新聞などを読んで表現活動をするアクティブリーディングの指導が必要なのではないだろうか。
- ・授業力の効果的向上の為には、学校としての統一した学力目標・授業力目標の設定が必須であり、その実現のための仕組みづくりが求められる。

## (2) 平成 28 年度高校入学者選抜について

- ・中学校としては、評定平均は府の基準どおり算出するが北摂地区は高くなると考えられる。また 10 段階から 5 段階に変更されることにより評定の差が縮小され高望みをする生徒が増えると考えられる。
- ・中学側も自己申告書については一定の指導が必要と考えている。
- ・各校の問題選択と内申と学力検査との比率をみれば学校経営の戦略が見えてくる。しっかりした戦略をもって 3 年間どのようなプロセスで育てていくかが大切である。
- ・アドミッションポリシーをどう読み込んで評価に取り入れていくのかについて早くから検討されていることを評価したい。今後詳細部分を詰めていただきたい。

## (3) 高大接続、学習指導要領の改訂について

- ・学習指導要領の改訂を受け大学入試改革が行われるが、中間報告によると当初予定の 2020 年に間に合わず 2024 年から適応されるようだ。推薦入試の場合も大学の学力保障のため基礎学力テストを判定基準に使う。制度設計がまだ確定していない。
- ・高校教育に適応した総合問題が作成されるのか、実現には課題がある。
- ・三島高校の生徒へアクティブラーニングで力をつけることは大切だが、どのように大学入試に反映するのかをしっかりと見極める必要がある。
- ・外部に目を向け、外部ソースのマネジメント能力を教員にも紹介し、教育活動にも応用して行くことも今後は大切である。